

# もっと知りたい！ お金の話 あれこれ

## 「銀座」があるなら 「金座」もある!?

### — 金座跡に建つ日本銀行本店 —

**皆**さんは、「金座」という言葉を聞いたことがある  
でしょうか？

**「金座」**とは、江戸幕府から大判を除くすべての金  
貨の鑄造を独占的に請け負った貨幣鑄造組織の  
ことで、金貨の鑄造のほか、通貨の発行という現在の  
中央銀行業務に相当する役割を担っていました。

**「金座」**の初代の長となった後藤庄三郎光次は、  
1596年（慶長元年）頃、徳川家康の命により、  
御用彫金師であった後藤徳乗の代わりとして江戸に赴  
き、本町1丁目に屋敷を構え、金貨の鑄造に携わりま  
した（以後、金貨の鑄造は光次を祖とする後藤庄三郎  
家が長となって行いました）。「金座」は、江戸のほか  
に、京都、佐渡、駿河にも開設されました。この頃の  
金貨鑄造は、鑄造所が設けられておらず、幕府から金  
貨鑄造の許可を得た「金吹き」と呼ばれる小判師が、

後藤家の指図の下、自宅で原判金を鑄造していました。  
原判金は、後藤家の屋敷内に設けられた後藤役所で検  
定され、後藤家の極印を打たれて初めて貨幣としての  
価値が生まれました。その後、1695年（元禄8年）  
に慶長金が元禄金に改鑄される際、江戸の本郷靈雲寺  
近辺に吹所（鑄造所）が設置されました。この時、京  
都などでの鑄造は中断され、原判金の鑄造や検定・極  
印打ちの作業は本郷の鑄造所に集約されました。しか  
し、1698年（元禄11年）には本郷の吹所が廃止さ  
れ、再び本町1丁目の後藤家の屋敷で鑄造作業が行わ  
れるようになり、幕末まで続きました。なお、「金座」  
は、当初「小判座」（佐渡は小判所）と呼ばれていまし  
ましたが、「金座」と呼称されるようになり、京都、佐渡は  
江戸金座の出張所となりました（駿河は1616年頃廃  
止）。



江戸の金座絵巻  
（左側）

「出来金改所（できがねあらためじょ）」

… 出来上がった小判の形状、量目を検査し、形の不整なもの  
を除き表裏の極印を改める。

（右側）

「分棹裁切場（ぶざおたちきりば）・分棹改場（ぶざおあらためば）」

… 小判の幅に延ばした金の細長い板（分棹）を切断し、その重量  
を秤る。

**さ**て、後藤家の屋敷があった「本町1丁目」は、  
現在の日本橋本石町に当たります。すなわち、  
日本銀行の本店建物は、まさに江戸時代の「金座」跡に  
建っているのです。日本銀行は1882年（明治15年）、  
永代橋のたもとの旧北海道開拓使東京出張所の建物で

業務を開始し、1896年（同29年）に現在の場所へ  
移転しましたが、旧館本館の建築中（1890年<明治  
23年>着工）は、かなりの金粒が採取されたと言わ  
れています。